

合言葉は「水曜夜、織田フィールド」

渋谷で走る会 - その名のとおり、渋谷を拠点として活動しています。

始まりは若き二人の誓い

渋谷で走る会が発足するきっかけとなったのは、当時まだ25、6歳だった加賀屋博文と国沢五月（トータス）が1994年9月にドイツとチェコで行われたワールドカップに参戦したことでした。

走りやすいコンチネンタルテレインにおける外国選手とのスピードの差を痛感した二人は、「このままでは来年のドイツでの世界選手権では戦えない」と思い知らされ、レースが終わったチェコの地で来年に向けてスピードトレーニングを実施しようと強く誓い合いました。両氏は帰国後、織田フィールドが毎週水曜日に一般開放されていると知り、初めて織田フィールドに足を踏み入れました。1994年10月19日、それが渋谷で走る会の誕生の日となりました。

この両氏が立ち上げた「水トレ」は「渋谷で走る会」となり、1995年のクラブカップリレー（長野県、駒ヶ根高原）で「初登場で2位、翌1996年（長野県、山吹高原）では初優勝を遂げます。昨年は3チーム（うち1チームはオールレディース）が出走するに至りました。

仲間は織田フィールドでのトレーニングを通して増えていきました。増えたのは必ずしも世界選手権を目指すようなエリート選手ばかりではありません。大学卒業後もトレーニングできる場所と仲間を求める者、一緒にオリエンタリングを続ける仲間を求める者が殆どです。クラブ員との結婚を機にOLを始め、今では大会の常連参加者にまでなった者もいます。クラブ結成当初は既婚率0%だったのが、今では46%となり、ジュニアも増え、かつての「エリート集団」的なイメージから、「地域クラブ」的なカラーが出てきて、よりアットホームな雰囲気へと変わってきました。また、メンバーの中で、OL以外のスポーツアドベンチャーレース、トライアスロン、山岳耐久レースなどにチャレンジする者も増えてきました。

その素晴らしき世界

都心でトレーニングをするにあたり、安全で仲間と一緒に走られる場所や機会はなかなかありません。そんな点で織田フィールドは安心して走ることができます。

トラック走りは飽きる？ とんでもない。織田フィールドは様々な競技や種目の人たちが常に100人以上走り回っています。

トラックでのトレーニングは不整地走りを要するOLには向かない？ とんでもない。必要なのは工夫です。また、8レーンのトラックの外側には、土や芝生の部分と数メートルながら傾斜もあるので、オリエンティアなら利用して、走りのパリエーションを楽しむのも手です。

なにより、一人ではトレーニングが続けられない意思の弱い人にもってこいの場です。仲間と一緒に日曜のレースの話や仕事の愚痴や雑談をしながら走ると、疲労感は紛れ、いくらでも走り続けられます。それに加え、お喋りしながら走るスピードが脂肪燃焼に効果的なのです。仕事帰りで多少疲れていても、ここで走れば心地よい肉体疲労に変わり、心身共にリフレッシュできます。

渋谷から広がる輪

水曜のトレーニングには、多摩・ES関東・京葉など他地域クラブの方も大勢走りに来ています。最近では、織田フィールドに近い東大以外の学生もトレーニングに打ち込んでいる姿を見かけます。たまたま東京に出張や研修に訪れていた人が水トレに参加することもウェルカムです。

私たちは、メンバー以外の方が多く渋谷に走りに来てくれることを望んでいます。もともとクラブという枠を作ってそこに人を集めたのではなく、「トレーニングしたい」という価値観を共有する人が自然と集まって一つのサークルを形成し、クラブへと発展したのです。それが我々渋谷で走る会の理念であり、また最大の特徴でもあります。いい意味での曖昧さが我々のポリシーともいえるでしょう。

百聞は一見にしかず。まずは水曜の夜、織田フィールドへ遊びに来てください。事前に当クラブのホームページの掲示板へ来ることを書き込むか、事務局加賀屋宛（jurikka@b03.itscom.net）に連絡いただくと、私たちも対応しやすいので助かります。

<http://homepage3.nifty.com/shibuya-o/>
皆さんのお越しを心よりお待ちしております。



織田フィールドにて
鹿島田浩二（右）と山口大助（ES 関東）



ホームパーティー '04（加賀屋家にて）